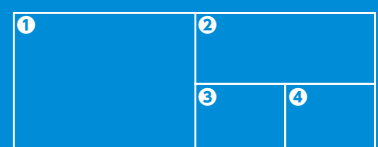


環境

持続可能な分かち合う地球へ

地球規模で進む温暖化問題をはじめ、エネルギーや食糧問題など、私たちを取り巻く環境は幅広い課題を抱えています。当社グループは、環境問題を重要な経営課題の一つと認識し、「グループ環境方針」に基づいて地球環境の保全と企業活動の調和に取り組んでいます。具体的には、事業活動によって生じる環境負荷軽減、金融機関としての本業を活かした環境ビジネスの推進、さまざまな団体と連携した新たな環境問題への取り組みといった活動です。私たちは、これらの活動を通して「先導的に地球環境問題に取り組む金融サービスグループ」になることを目指しています。



- ① 英国の洋上風力発電プロジェクト、「ロンドン・アレイ」へのファイナンス
- ② 滋賀県琵琶湖での環境体感学習開催
- ③ 台北で開催された、エコプロダクツ国際展への出展
- ④ インドネシア国立ボゴール農科大学との提携

環境負荷軽減への取り組み

環境モデル店舗を通じた負荷削減

三井住友銀行では、環境配慮型モデル店舗（下高井戸支店、甲南支店）において、太陽光集光装置やLED照明を組みあわせることによる店内照明の電力削減、太陽光パネルや壁面緑化の使用、また空調をはじめとする設備電力の負担軽減に取り組んでいます。CO₂排出量は、改修前対比で約4割の削減効果を実現することができました。この実績を踏まえ、他店舗においても積極的にLED照明や省エネ型空調設備の導入を進めています。

みなと銀行でも、下記4カ店の新築移転に伴い、環境に配慮した設備を導入しています。

●みなと銀行における環境配慮型店舗

尼崎支店	2011年4月	太陽光発電設備、LED照明、断熱ガラス、壁面緑化
小野支店	2011年4月	太陽光発電設備、LED照明、断熱ガラス、壁面緑化
西明石支店	2012年4月	太陽光発電設備、LED照明、壁面緑化
本山支店	2013年5月	太陽光発電設備、LED照明

商品・サービスを通じた環境負荷の削減

三井住友カードとセディナでは、お客さまに参加いただける環境への取り組みとして、「WEB明細書サービス」を推進しています。「WEB明細書サービス」は、毎月のカードご利用代金明細書を郵送による方法に代え、インターネットでご確認いただくサービスです。

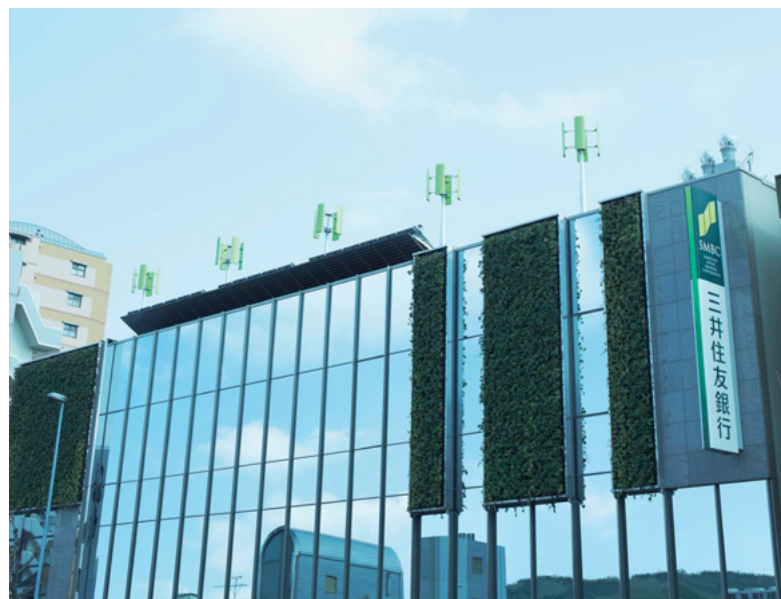
セディナでは同サービスを通じ、お客さまへの情報伝達の安全性やカードご利用明細管理の利便性の向上を実現しています。環境面においては明細書の郵送を停止することにより、1通当たり約500グラム*のCO₂削減効果を生み出しています。

また三井住友カードは、2013年12月から2014年2月まで、環境活動の一環として「加盟店売上WEB明細書サービス」の登録数に応じて植樹を行うキャンペーンを実施しました。NPO法人が運営する植樹プロジェクト「Present Tree」を通じ、「加盟店売上WEB明細書サービス」へ切り替え登録した加盟店3カ店につき1本を植樹、計108本を岩手県宮古市へ植樹しました。

※ 環境省「エコ・アクション・ポイントの二酸化炭素削減効果の算出手法例」をもとに算出

環境対応車への切り替え

SMBCフレンド証券では、営業部店の営業車にエコカーを導入しています。2009年度より、エコカーへの切り替えを進めるとともに、環境未対応車のCO₂排出量相当分の排出権を購入（カーボンオフセット）してきましたが、2013年度に、当初予定していた切り替えは全て完了しました。今後も、営業活動における環境負荷軽減に努めていきます。



太陽光集光装置と壁面緑化を採用した三井住友銀行甲南支店

システムを活用したエネルギー管理

みなと銀行では、BEMS（ビル・エネルギー管理システム）を導入しています。使用電力の「見える化」を図ることで使用電力量を30分間隔で把握、使用最大電力量の抑制や節電を推進しています（使用最大電力量の削減効果10%）。

また、PPS（特定規模電気事業者：株式会社エネット）の新電力を採用し電力供給元の分散化を行い、環境負荷の小さい天然ガス（LNG）を中心として、太陽光、水力、風力、バイオマス等自然エネルギーを最大限に活用しています（年間39tのCO₂削減効果）。

●BEMSの導入

2012年7月	本部ビルおよび営業店8カ店
2013年4月	営業店17カ店に追加導入

●PPSの採用

2013年4月	本店ビルおよび営業店65カ店
2014年4月	伊藤町ビル
2014年9月（予定）	本山支店

詳しくはWebサイトをご覧ください。

▶ Web 環境負荷軽減
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/environment/reduction/>

●さまざまな評価型融資制度

2008年	「SMBC環境配慮評価融資/私募債」	企業の環境配慮への取り組みを評価・支援
2010年	「SMBC環境配慮評価融資/私募債eco/バリューup」	
2011年	「SMBC食・農評価融資/私募債」	食の安全や食文化等への取り組み状況を評価・支援
	「SMBCサステナブルビルディング評価融資/私募債」	建物の環境性能・耐震性能等を評価・支援
	「SMBC事業継続評価融資/私募債」	地震や洪水等、有事の際におけるお客さまの事業継続への取り組みを評価・支援
2013年	「SMBCサステナビリティ評価融資/私募債」	環境(E)に加え、社会(S)・ガバナンス(G)を加えたESGへの取り組みと情報開示の適切さを評価・支援

SRI(社会的責任投資)を通じた環境保全

SMBC日興証券では、企業の社会や環境への取り組みや事業活動での影響を考慮して投資対象を決める「SRI」に早くから取り組んでいます。1999年に日本で初めて投資信託に環境の視点を取り入れたSRIファンド「日興エコファンド」の取り扱いを開始して以来、さまざまな環境関連投資信託をお客さまにご提供しています。

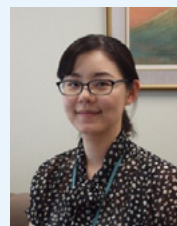
2010年からは、世界銀行との共同開発による「SMBC・日興 世銀債ファンド(愛称:世界銀行グリーンファンド)」と、環境保護への貢献を目指した債券である「グリーンボンド(世界銀行が発行する債券の一種)」の取り扱いを開始しました。「SMBC・日興 世銀債ファンド」は、グリーンボンドに投資する世界初のファンドで、このファンドの収益の一部については、世界が直面している社会的課題の解決に活かされるよう、日本ユニセフ協会、日本赤十字社に寄付を行っています。

また「グリーンボンド」は、調達した資金を「環境保護」に係る融資に限定しているのが特長です。SMBC日興証券は「グリーンボンド」の販売を通じて、ご購入いただく投資家の皆さまとともに、地球の持続可能な発展への貢献を目指してまいります。

SMBCフレンド証券では、お客さまが債券への投資を通じて、環境問題などの社会的な課題解決につながる事業を支援することができるよう、商品の企画・販売を行っています。

特に「地球環境債」はその中核商品として、取り扱いを拡充しています。「地球環境債」とは、自然エネルギー開発や森林再生などの環境事業プロジェクトを支援するために発行される債券で、お客さまはこの債券への投資を通じて、環境問題の解決につながる事業を支援することが可能になります。今後も、お客さまが投資を通じて社会貢献を行うことができる商品を、継続して提供していきます。

VOICE

SRIを通じて
お客さまとともに
環境保全に取り組む

SMBCフレンド証券
商品戦略部 課長代理

五井 智子

外国債券の組成を通じて、主に途上国支援の資金調達ニーズがある国際金融機関等と、投資機会を必要としているお客さまの橋渡しをしています。中でも、地球環境債は、投資を通じて社会貢献ができ、またプロジェクトの詳細が公表されているため資金の使い道が分かりやすいと、お客さまから高い関心を寄せていただいている商品です。

今後も地球環境債の取り扱いによって、経済面のみならず、社会貢献や環境保全という側面からも、お客さまに豊かな暮らしをご提案できるよう努めていきます。

定期預金を通じた地球環境保全活動への支援

関西アーバン銀行では、2003年度からお客さまからお預かりした残高の一定割合金額を、環境保全活動を支援する基金等へ寄付する預金商品の取り扱いを開始しました。

預金をすることで間接的に地域の環境保全活動に参加することができるようスキームについて、多くのお客さまからご賛同をいただき、寄付金額の累計は5,000万円を超えました。

みなと銀行でも、兵庫県森林組合連合会が森林をCO₂の吸収源とした森林カーボンオフセット事業を開始したことを受け、カーボンオフセット定期預金「みなとエコ物語」を展開しています。2010年3月に、森林カーボンオフセットサービス(CO₂削減目標を側面支援するサービス)を利用した預金商品を金融機関として初めて取り扱いました。森林カーボンオフセットサービス利用料としてみなと銀行が拠出する資金は、兵庫県森林組合連合会を通じて兵庫県内の森林環境を維持するために活用されます。

●関西アーバン銀行2013年度寄付実績

マザーレイク滋賀応援基金	310万円(寄贈日:2014年4月24日)
大阪府環境保全基金	155万円(寄贈日:2014年4月30日)
大阪市環境創造基金	155万円(寄贈日:2014年4月30日)



2014年4月、大阪府・大阪市への寄付贈呈式

英国風力発電プロジェクトへの取り組み

三井住友銀行は従来から、風力・太陽光発電等の再生可能エネルギー分野の開発を、プロジェクトファイナンスのアレンジ・融資を通じて幅広く支援しています。特に再生可能エネルギーの普及が進んでいる欧州地域について、2013年度に英国で7件(風力発電関連4件、廃棄物処理発電3件)、フランスで3件(太陽光発電2件、廃棄物処理発電1件)のプロジェクトファイナンスに取り組みました。このうち、英国の洋上風力発電プロジェクト「ロンドン・アレイ」は、175機の風力発電機を備えた世界最大の洋上風力発電プロジェクトで、合計出力は630MW(メガワット)、英国の約50万世帯にクリーンな電力を供給します。三井住友銀行は本プロジェクトのファイナンスを主幹事として取りまとめていることに加えて、同発電所にて発電される電力を地上へ送る送電プロジェクトのファイナンスについても主幹事を務めています。また、本送電プロジェクトについてはInfrastructure Journal誌が選ぶ2013年のDeal of the Yearを受賞しています。



VOICE



世界中の再生可能エネルギーの普及支援に携わる

欧州三井住友銀行
ストラクチャードファイナンス営業部

David Benguigui

三井住友銀行ではプロジェクトファイナンス分野でのアレンジ実績とノウハウを活かし、世界中で広がる再生可能エネルギーの普及を支援しています。私は主に欧州地域における風力・太陽光発電プロジェクトへのファイナンスを担当しており、「ロンドン・アレイ」プロジェクトでは主幹事としてファイナンスを組成しました。次世代を見据えた温室効果ガス削減や、持続可能なクリーンエネルギーの創出に、プロジェクトの初期段階から携われることがこの仕事の醍醐味です。

詳しくはWebサイトをご覧ください。

▶ Web 環境ビジネス

<http://www.smfg.co.jp/responsibility/environment/business/>



新たな環境問題への取り組み

日本の農業技術をインドネシアへ

三井住友銀行は2014年3月に、インドネシア国立ボゴール農科大学と、農業分野の提携を行いました。インドネシアは、ASEAN地域最大の人口2.4億人を抱え、中間層の拡大による食品市場の拡大、並びに嗜好の欧米化が進んでいます。一方、一部の農畜水産分野が輸入に依存している状況を踏まえ、自給率を向上させるべく、生産技術・加工技術に優れた外資企業の資金や技術の導入が期待されています。ボゴール農大は同国最大の農業大学であり、インドネシアの政策実現・農業分野の課題解決等を目的として、先進国企業との連携・共同実証事業等に

積極的に取り組んでいます。また、インドネシアが世界最大のイスラム国家であることから「ハラール認証」(イスラム教義に即した食品等の認証)に関するアドバイスも行っています。今後も同大との連携を通じ、三井住友銀行からボゴール農大へはインドネシア市場・イスラム市場へ進出を図る日本企業を紹介、同大からは企業が必要とする関連情報の提供、現地農家・企業の紹介、共同実証・人材提供などを受けてまいります。

VOICE



企業や省庁、大学と連携し医療・介護・農業を再興

三井住友銀行
成長産業クラスター 部長代理補

栗林 秀行

2013年4月、成長産業クラスターで医療・介護、農業を担当するグループを設置し、1年強が経ちました。この1年、主に日本企業の海外展開の支援や国内外の省庁や大学との連携に意識を置いて取り組んでまいりました。日本政府が掲げる「日本再興戦略」の中でも、医療、農業への注力方針が明確に挙げられており、メガバンクとしても貢献できるよう今年度も取り組んでまいりたいと考えております。



ボゴール農大との覚書締結

環境関連の社会貢献活動

環境保全活動への参加

当社グループでは「SMFGクリーンアップデー」を定めています。2013年度はグループ各社の有志役職員とその家族約1,500名が、荒川、淀川、須磨海岸(兵庫)、藤前干潟(愛知)の4会場で清掃活動に参加しました。

海外拠点でも同様の活動は行われています。例えば、三井住友銀行(中国)有限公司では、ボランティア活動等、多岐にわたる活動を実施していますが、特に2013年度は各拠点にて植樹活動に参加し、地域の緑化活動に貢献しました(2013年4月に瀋陽支店、11月に上海本店、2014年3月に天津支店)。

引き続き、植樹活動のほか、キッズセミナー、環境美化活動、ボランティアを含む寄付活動等を通じて、社会全体の持続的な発展に貢献していきます。



2013年11月、浦東新区三楊緑地での緑化活動

環境リテラシーの推進

関西アーバン銀行では、次代を担う子どもたちに関西の「マザーレイク」である琵琶湖を通じて、自然を大切に思う気持ちを育てていただくため、親子向けの環境体感学習を開催しました。当日は、滋賀県内外から参加いただいた親子連れ74名が環境学習船に乗船し、琵琶湖の水質調査やプランクトン観察をした後、琵琶湖博物館を見学しました。

また、三井住友ファイナンス&リースは、環境問題の大切さを伝え行動を喚起することを目的とする「環境フォト・コンテスト」に2008年から協賛し、「三井住友ファイナンス&リース賞」を贈呈しています。同コンテストは、協賛企業が環境に関する募集テーマを掲げて、一般の方々から各テーマにふさわしい写真を募集し賞を贈呈するものです。全体の最優秀作品には環境大臣賞・環境フォト大賞が贈呈されます。



2013年8月、滋賀県での「夏休み!びわ湖体感学習」

VOICE

地域の緑化に貢献する 環境保全活動



三井住友銀行(中国)有限公司
経営企画部

沈 楚楚

上海において地域の緑化委員会が主催する植樹活動に参加しました。植樹活動は想像していた以上に大変な作業でしたが、参加者からは「地域の緑化活動への貢献とともに、家族との交流、また他部門の従業員とコミュニケーションを図ることができ、非常に有意義だった」と大変好評を得ることができました。今後もこのような活動を通じて、地域社会の発展に貢献していければと考えています。



「環境フォト・コンテスト」の「三井住友ファイナンス&リース賞」受賞作品